

天野先生の実践例紹介

高等学校 国語 安部公房『鞆』の実践

・安部公房『鞆』…

事務所を営む私が半年前に出した求人広告を見て、職探しには不釣り合いな大きな鞆を持った青年が訪ねてくる。

手にすると自分の意思とは関係なく導かれるままにさまよってしまうという不思議な鞆に青年と私が振り回される姿を、主体的に行動したり考えたりする責任から自由になることを望む人間への皮肉を込めて描いた短編小説。教科書で6～7ページほど。

・登場人物の言動と心情、文章表現に着目し、本文を生徒自身引き付けて主題に迫る授業。ワークシート中の問いは、講義形式の授業でも取り上げるようなものばかりで構成した。

・前時に音読と初読の感想記入だけ行い、単元のはじめに実施した。

高等学校 国語 安部公房『鞆』の実践 授業デザイン

⑤メインの ①と 同じ 問い	④クロス トーク	③ジグソー 活動	②エキスパート活動			①メインの 問い
			C 表現	B 私	A 青年	
作品を通じて作者はどんなメッセージを伝えたかったのか。	(各グループの代表者による発表)	<ul style="list-style-type: none"> ・鞆はどんな存在として描かれているか。 ・鞆がある時とない時ではどちらが自由か。 ・身の回りにあるもので、鞆と同じような意味を持つものは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「歩け始めた」とはどのような意味か。 ・「嫌になるほど／自由だ」とはどのような意味か。またどのような自由か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鞆と青年に対する私の態度はどう変化したか。 ・私はこの後どうなっただろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青年にとって鞆はどんな存在だろうか。 ・鞆を置いて出ていった青年はこの後どうなっただろうか。 	作品を通じて作者はどんなメッセージを伝えたかったのか。

高等学校 国語 安部公房『鞆』の実践 解答の変容

問. 作品を通じて作者はどんなメッセージを伝えたかったのか。

	①授業のはじめ	⑤授業のおわり
生徒1	自由とは一体何か。	そもそも何が自由で何が自由でないのか。 <u>制限のあるところから見たほうが自由なのか、制限が全くないほうが自由なのか。</u>
生徒2	どんなに普段と違う状況にいたとしても、信じていれば道は切り開かれる。	本当の意味での「自由」とは何か、 <u>鞆を例えとして読者にいろんな意味での「自由」を伝えているのではないかと思います。</u>
生徒3	人は時に持ち物を取り換える必要がある。	自由とは何か。 <u>「自由」の形は一つではないということ</u> を伝えたかったのではないか。